



国民春闘共闘

第13号

2016年3月10日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

JMITUで回答引出し、ストライキ決起

82支部・分会で回答引き出す 低額・ゼロ回答にストライキ決起

JMITU（日本金属製造情報通信労働組合）では、産別回答指定日の3月9日に全国82支部・分会（有額回答80支部・分会）で回答を引き出しました。ゼロ回答や回答延期、超低額回答が示された支部・分会もあり、翌10日にはこうした経営者の姿勢に全国各地で統一行動やリレーストライキが行われ、抗議と要求の強さを大きく示しました。

有額回答を引き出した80支部・分会での賃金引上げ回答の単純平均（支部・分会平均）は、5,376円（1.88%）、加重平均（組合員平均）は5,955円（2.11%）となっています。昨年同時期と比較し、単純平均で135円減（-0.15ポイント）、加重平均で100円増（+0.09ポイント）と昨年とほぼ同水準となっています。

東京、埼玉では最高額20,000円を筆頭に10,000円を超える回答を引き出した支部・分会もあり、神奈川、長野、愛知、大阪、兵庫などではこれまで回答指定日に有額回答の引き出しが難しかった支部・分会で有額回答を引き出すなど変化も生まれています。

JMITUは同日「16春闘回答指定日の中央闘争委員長見解」を発表し、回答内容について「組合員の生活改善に向けた切実な要求に対して、はるかに低額の回答であり要求からかけ離れている。昨年秋からの経営環境の変化があるとはいえ、組合員の気持ちにこたえたものとは到底言えず経営者の努力の姿勢が感じられない。これでは仕事へのモチベーション、職場の活力が生まれない低額回答と言わざるをえない」と指摘。「回答は全体として、経営の都合をおしつけるものではあるが、経営環境が悪化したなかでも、昨年同等の回答を引きだした支部・分会もある。執念をもって実現する春闘要求を練り上げるなど、組合員の団結強化に力を尽くし、また組合員拡大を実現するなど組織建設強化のとりくみが影響している。逆に組織強化が立ち遅れているところでは、回答の後退がみられる。春闘回答には労使の力関係が反映している」と分析しています。

回答指定日翌日には、低額回答やゼロ回答や回答延期に抗議し、全国でストライキ決起し、統一行動、リレーストライキが行われました。

東京では27支部・分会、970人がストライキや職場集会に決起し、リレーストで職場を激励しています。大阪では3コースに分かれリレーストで回答促進行動に打ってで、ストライキや決起集

会などを含めた行動に 260 人以上が参加し奮闘しています。埼玉ではリレーストを行い、埼玉の各職場を激励後、栃木に足を延ばし文化シャッター小山の激励をしています。長野では 2 コースに別れリレーストで職場を激励し、全体で 200 人を超える統一行動を展開しています。京滋では夕方にカシフジ支部で決起集会を行いその後、京都総評の決起集会に参加しています。茨城では夕方、東京電機で決起集会が行われ、池貝やボッシュレックスロスはストライキで参加しています。栃木では日本起重機と文化シャッターがストライキに立ち上がり、地本の激励団が職場を激励しています。千葉では三和機材がゼロ回答に対してストライキで抗議し、その後駅頭で宣伝行動を行っています。各地に支部がある文化シャッターや NCR でも時限ストに入り、回答延期や低額回答への抗議が行われました。

JMITU では「16 春闘では初回回答が示されてからの取り組みが特に重要だ。初回回答に目を奪われず、みんなで作った要求に立ち戻り、どうしたら要求実現できるのか、どう団結をつくるかを『16 春闘回答指定日の中央闘争委員長見解』にもとづき、職場討議などでよく議論し、あらためて団結をつくりあげよう。第 2 回統一交渉日までに、もう一度一言メッセージの取り組みや家計簿調査を行い、生活実態を明らかにして、それを持って職場の組合員と一しょに経営者へ要請するなど、これまでの延長線上ではない取り組みを強めよう。地本・地協は、支部の回答状況と職場の闘争態勢を分析し、産別統一闘争の強化に向けて援助を強めよう」と呼びかけています。

今後、3 月 16 日を第 2 次回答指定日に、翌 17 日には第 2 次統一行動・ストライキを構えたたかいを進めていきます。

**STOP 暴走政治、戦争法廃止！ 壊すな憲法
暮らしまもる共同で、賃上げと雇用の安定、地域活性化**